独立行政法人水資源機構理事長賞（優秀賞）

水道への感謝と僕の決意

石川県 学校法人稲置学園星稜中学校 一年 吉田喜一

僕は今まで、水道についてあまり考えたことがありませんでした。「蛇口をひねる」という言葉がありますが、僕が思いうかべる水道、特に手洗い場のイメージは、センサーに手をかざすと自動で水が出てくるタイプです。場所によっては、お湯が出てくる場所もあります。便利だなぁとは思っていたけど、それが特別なものだとは思っていませんでした。

今回この作文を書くにあたり、日本の水道の仕組みを考えると、非常に優れた技術だと改めて思いました。

僕は昔のことを考えてみました。人々の暮らしを考えた時に、最初に思い出したのは桃太郎のお話です。おばあさんは川で洗たくをしていました。つまり、水道はまだ無かった事が分かります。次に思い出したのは、トトロです。作中では、井戸水を使って炊事をしています。その次に思い出したのは、ドラえもんです。のび太のママは、水道のある台所で料理をし、洗たく機で洗たくしています。

桃太郎の時代背景は、室町時代末期から江戸時代初期頃とされています。トトロの時代背景を調べてみると、昭和三十年代初頭とのことです。約七十年前ということになります。ドラえもんのアニメがスタートしたのは、一九七九年です。今から四十六年前です。

つまり、トトロの時代からドラえもんの時代までの三十年弱の間に、水道をはじめ、人々の暮らしが激変していったことが分かります。この三十年間は、高度経済成長と呼ばれる時期と、日本の公害病の問題が深刻化した時期と重なることも分かります。日本の水の安全がおびやかされた時代です。

この時期を乗り越えてくれたおかげで、僕達の世代は、水が安全ではないものかもしれない、とは考えたこともなかったのだ、と思いしらされました。

「安全」とは色々な意味で捉えることができます。公害にさらされているものではない、という意味と、地震などの災害時にでも「出なくなる」という心配がない、という意味、それから、「無くなる心配がない」という意味の安全だと僕は考えました。

能登半島地震発生時には、大規模な断水が長く続いたことは記憶に新しいところだけど、それでも、様々な公的支援や、水道に関わる施設の人々、暮らしていた人々の工夫や苦労のおかげで、少しずつ前に進んでいると思います。僕にはまだ感謝することしかできないけれど、水道が出なくなるなんて考えもしない、危険だから直接飲めない、なんて考えもしないで生活してこられたことに、改めて感謝しなければならない、と思いました。

僕達の世代は、「どんどん作れ！どんどん増やせ！」という時代ではありません。保育園の頃にはすでに「エコ」という言葉は知っていたし、ＳＤＧｓ、サステナブルという言葉も小学校で習いました。「限りある資源をどう守るか？」という時代です。

僕が小一になった時、過去最少人数の新一年生、とニュースになったそうです。年々人口が減少している中で、水道に関わる職業を選ぶ人、となると、更に割合は減ることも想像できます。そうなると、水道の安全を維持するのが難しくなる日がくるかもしれません。そう考えると、人も資源といえます。

水の未来は、僕達一人ひとりが担うのだ、守られるだけでなく、守るにはどうしていくべきか、考えていきたいと思いました。今すでに、待ったなしの環境問題や人手不足の問題にさらされています。僕が社会に出るにはまだ時間があるけれど、水道に関わる仕事の皆さんへの感謝の気持ちを勉強に注ぎ、しっかりと納税できる人になっていきたいです。